

海老名市ゆめクラブ連合会では、新規会員を募集しています。
現在、市内にある54のクラブでは、地域活動(清掃美化活動・友愛活動)、教養活動(各種講演会、健康活動(運動会・新スポーツ大会)、レクリエーション活動(バスハイイク・研修旅行) などさまざまな活動を行っています。今世紀は「高齢者の世紀」と言われており、3500人の会員で組織されている同連合会は、地域の核となる団体として、幅広い活動にますます期待が高まっています。きつとあなたの活躍

ゆめクラブ活動に参加しませんか！

市内お近くの54クラブへ

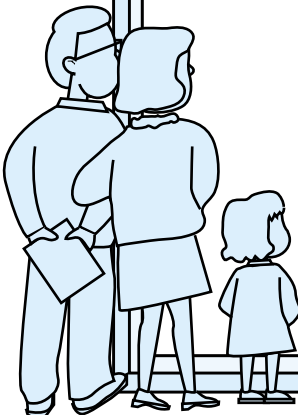
60歳以上の方
ぜひご加入を

「介護者教室」 2月28日・市役所で開催
市と市内在宅介護支援センター共催の介護者教室を開催します。
▽日時 2月28日(土) 午後1時～4時
▽会場 市役所71・72会議室
▽対象・定員 市内在住で高齢者を介護されている方、その支援者の方など・30人
▽内容・講師 第一部「介護者のためのテーピング・腰痛・肩こり・膝痛を和らげる」(健康づくり総合研究所代表・高垣勝勲氏)、第二部講演「痴呆高齢者の理解と接し方」(介護老人保健施設なのはな苑看護部長・松浦美知代氏)
▽参加費 無料。
▽申込 高齡福祉課(内461)。

9月5日 市民音楽祭 参加団体を募集



去年の祭典から(童謡倶楽部《萌》)



申し込み2月27日(金)まで

音楽活動を行うアマチュアの方…

市では、9月5日(日)に開催する「第19回海老名市民音楽祭」の参加団体を募集します。
この音楽祭は「市民による市民のための手づくり音楽祭」をモットーに、各参加団体で構成する市民音楽祭実行委員会が企画・運営

するものです。
▷募集期間 2月27日(金)まで ▷会場 文化会館 ▷対象 市内で合唱・邦楽・器楽などの音楽活動を行うアマチュアの団体(マイク・電気楽器の使用不可)。
申 問 直接生涯学習課(☎232・3231)へ。

環境まめ知識 ⑨

太陽光発電など「新エネルギー」

自然に存在する太陽の光や、風力、廃棄物などを利用して得る、環境に優しいエネルギーを新エネルギーと言います。代表的なものとしては太陽光発電や風力発電、廃棄物発電などがあります。
現在、私たちが使っている電気は、石油や石炭・天然ガスによる火力発電、原子力発電を中心にまかなわれています。しかし、石油や石炭などの化石燃料には埋蔵量に限りがあり、原子力発電では発電によって出る廃棄物の処理などが問題となります。新エネルギーの利用が進めば、



新エネルギーを設けた住宅もチラホラ…

地球温暖化の原因にもなっている二酸化炭素の排出量を減らすことができます。
電気代も半分から2/3程度
新エネルギーは、未来のエネ

市内のパネル住宅100軒に

ルギーのように思えますが、市内でも徐々に取り入れられています。最近、一般化しているものの一つが太陽光発電です。市内では、約100軒の住宅が太陽光パネルを設置しています。太陽光で作られた電気は家庭内で使われ、余剰分は電力会社に売られています。太陽光パネルを設置した家庭では、電気代も半分から3分の2程度になっています。
公共施設や事業所などでも太陽光発電の利用が増えつつあります。駅前のショッピングセンター「ビナウォーク」では、屋上に太陽光発電パネルが設置され、エスカレーターの運転などの動力電源になっています。
このほか、建物に取り付ける発電設備以外にも、自動点灯の屋外灯や電池の充電器など、気軽に安く取り入れられる太陽光発電機器も多く販売されるようになっています。みなさんの家庭でも取り入れてみませんか。
問 環境保全課(内533)。

ISO14001研修会

「環境マネジメントシステム」

市と商工会議所の共同主催で、ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムに関する研修会を開催します。
▽日時 2月19日(木)・26日(木)、午後6時～8時30分(2日間で1コース) ▽会場 商工会議所2階中会議室 ▽対象 市内事業所の従業員および一般市民で関心のある方 ▽内容 ①環境マネジメントシステム規格ISO14001には何が書かれているか、その意味するところは何か、②認証取得とは何か、認証取得に取り組む場合、どんなことをしなければならぬか ▽講師 環境保全課ISO担当職員 ▽参加費 無料。
申 (個人参加の場合は)住所・氏名・電話番号・職業、(市内事

問環境保全課(内533)

問 海老名商工会議所中小企業相談所(☎231・0225、Eメール m_ando@ecci.or.jp) また city.edinakanagawa.jp) へ。

育てた「わら」でどんど焼き

●ボイスカウトが活動の締めくくり

○1月14日、目久尻川沿いの空き地でボイスカウト海老名第3団(古橋久吉団員長・団員30人)のメンバーが自ら育てた稲のわらで作った松飾りを焼き上げて「どんど焼き」を行いました。写真。〓

同団は、リサイクル学習の一環として、市内の廃棄物処理業者「共栄美化」(〒今泉・菅野二郎代表取締役)が製造している市内の生ごみを原料にした「たい肥」を使って稲作を行い、どんど焼きはその最終工程。

参加した少年たちからは、「自分たちが育てた稲で団子を焼いたので、すごくおいしかった」などの満足の声が聞かれました。

